

---

# 二通の手紙

bluewind

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

一通の手紙

### 【著者名】

N4057C

### 【作者名】

bluewind

### 【あらすじ】

認められた一通の手紙。愛する貴方へ宛てる手紙。送られた手紙、消えた手紙。

手紙・一

拝啓、花子さま。

唐突に御手紙を記しました御無礼、どうかお許し下さい。

私はどうしても貴方にお伝えしたくてたまらないことがあるのです。それは私が貴方の御姿を初めて見た時からの、実に積年の思いでした。

決して口には出すことの出来なかつた気持ちでした。

もし。

もし、それをそれとなくあなた自身お知りになられていたら、どれだけ私の心が安らいでいたか知れません。

しかし時は無情に過ぎ去るばかりで、私と貴方は会つ度に、貴方は満面の笑みを浮かべ御美しいばかり、私の胸はぎりぎりと軋むばかり。

私も貴方の笑みにつられて、これ以上無いといつまでも笑みを作つて返すばかりでした。

覚えていりますでしょうか。

私が貴方を初めて御食事に御誘い申した時。

御付き合い下さる返事を聞いた時は、私の心臓は即座に破裂し、血を口より噴き出してしまわんばかりの胸の高鳴りでした。

私は知り得る限りの最高の御店を探して、貴方をお連れしましたが、しかし貴方はどこか少し浮かない顔をされているのを見て、内心の私は苦しくてその場にくずおれてしまいそうなほどに焦つたものです。

それでも実際の食事の際、私の震える声で色々な拙い口頭の話をしている時に、貴方は何かに気付いたようにふつと薄く微笑んだ時は、私は心の底から安心を覚えました。

そして貴方は、何かを「」まかすようにグラスを口に運んでいました。その仕草さえ私には美しく見え、私は呆然としてその様を眺めるばかりでした。

また貴方の御誘いで散歩に付き合わせて頂いた時、ふと立ち寄った御店のショーウィンドウに飾られたとあるバッグ、私にはさぞ貴方にお似合いかと思ったものです。

それが貴方自身も欲していたと聞いた時は、驚き、胸が激しく躍りました。

その後、私は少し貴方を置いて、駆け足で町の中へ消えていきましたよ。

あれは、あのバッグのために何とかならないかという思いで、私の寂しい懐を少しでも温めようと、色々探し回り走っていたのです。勿論、貴方一人を町中に残した失礼、それはあまりに無礼なことで謝るにも謝り切れるものではありません。

しかしその後、私があのバッグを持つて貴方の前に現れ、幼くも精一杯の私の気持ちを貴方に御渡しした時の、貴方のあの晴れやかな眩しい笑顔、私はきっと生涯忘ることが出来ません。

そして、それからというもの、貴方はすっかり私の前から姿を消してしまいました。

いつものところに、私は毎日毎日訪れていますが、貴方は全く現れません。

かつては貴方と一緒にいることが当たり前のようだった私の日常が、今ではすっかり私が一人でいることが当たり前のような、そんな気持ちを覚えるほどになってしまいました。

ついに我慢の出来なくなってきた私は、幾度か直接あなたの家を訪れようかと思ったのです。

しかし勿論そんな失礼なことをする度胸は私にはなく、もづつと半年以上も私は一人でいるのです。

私は寂しくて寂しくて、それこそ言葉通り枕を涙で濡らすほどの辛い苦しみを覚えています。

ひと目でいいのです。

たつた一度で構いません。

私は貴方の笑顔を見るだけで、すつと私の胸に柔らかな一翼の羽が  
生えたような心地がして、その羽をはためかせて空を飛ばんばかり  
の、この上ない喜びを感じることが出来るのです。

嗚呼どうか、御返事一つでも頂くことは出来ないでしょうか。

私は、いつまでもいつまでも、貴方のことを

手紙・二

拝啓、花子さま。

御無沙汰しております。

私です。

偶然知人より、貴方のことの御話を聞きまして、こうして御手紙を  
したためた次第です。

御結婚、おめでとうござります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4057c/>

---

二通の手紙

2011年1月27日02時13分発行